

水道事業経営戦略 主な改定事項

頁	見出し	改定事項	改定後
1	1.事業概要 (1)事業の現況 ①給水	計画給水人口	(改定前)25,850人 (改定後)17,800人
		現在給水人口	(改定前)18,532人 (改定後)17,113人
		有収水量密度	(改定前)0.33千m ³ /ha (改定後)0.34千m ³ /ha
1	1.事業概要 (1)事業の現況 ②施設	管路延長	(改定前)205.45千m (改定後)205.53千m
		施設能力	(改定前)10,440m ³ /日 (改定後)7,167m ³ /日
		施設利用率	(改定前)50.12% (改定後)75%
1	1.事業概要 (1)事業の現況 ③料金	料金改定年月日	(改定前)平成18年5月1日 (改定後)平成29年5月1日
1	1.事業概要 (1)事業の現況 ④組織	組織	平成31年4月機構改革により、上下水道課と建設課が統合。 職員数及び事業運営組織を更新した。
2	1.事業概要 (2)これまでの主な経営健全化の取組	主な経営健全化の取組の追加	<ul style="list-style-type: none"> ・「H29.3 会津美里町水道事業経営戦略の策定」追加 ・「H29.5 料金改定の実施」追加 ・「H30.10 会津美里町水道事業ビジョンの策定」追加 ・「H31.3 会津美里町アセットマネジメント計画策定」追加
2	1.事業概要 (3)経営比較分析表を活用した現状分析	経営比較分析表	令和2年度の経営比較分析表の内容へ更新した。
3	2.将来の事業環境 (1)給水人口の予測	給水人口の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・H23～R2を実績値へ変更。 ・改定前の計画値と実績値を比較すると、それほど大きな差はなかった。実績値を基にR4～R8の推移を更新。 ・改定前は平成27年度と比較していたが、改定後は令和2年度と比較する。 (改定前) 平成23年度から平成27年度までの5年間で3,100人減少し、平成38年度までにはさらに3,500人の減少 (改定後) 平成23年度から令和2年度までの10年間で4,592人減少し、令和8年度までにはさらに1,166人の減少 ・町の人口ビジョンにおける減少率が変更されていたため、給水人口の減少率も変更。 改定前:年間約2% 改定後:年間約1.5%
3	2.将来の事業環境 (2)水需要の予測	使用水量の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・H23～R2を実績値へ変更。 ・改定前の計画値と実績値を比較すると、実績値は計画値よりも上回っていた。R2における実績値を基にR3～R8の推移を更新。 ・口径13mm及び20mmの使用状況割合を更新した。 ・改定前は平成27年度と比較していたが、改定後は令和2年度と比較する。 (改定前) 平成23年度から平成27年度までの5年間で年間103千m ³ 減少し、平成38年度見込ではさらに年間164千m ³ の減少 (改定後) 平成23年度から令和2年度までの10年間で91千m ³ 減少し、令和8年度までにはさらに92千m ³ の減少

頁	見出し	改定事項	改定後
4	2.将来の事業環境 (3)料金収入の見通し	料金収入の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・H23～R2を実績値へ変更。 ・H29年5月から料金改定を実施 給水収益は年間50,000千円程度増加した。 ・改定前の計画値と実績値を比較すると、実績値は計画値よりも上回っていた。実績値を基にR4～R8の推移を更新。 ・令和2年度及び令和3年度 コロナウイルス感染症対策 応援事業(基本料金半額減)実施 料金収入の減少損失は、一般会計の補助金で補填。
4	2.将来の事業環境 (4)経営状況の見通し	当年度純利益(又は純損失)の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ・H23～R2を実績値へ変更。 ・平成29年5月から料金改定を実施 経常利益に転じ、平成30年度には累積欠損金も解消した。 ・令和元年度に用水料金の基本料金減額改定 受水費の減少により当年度純利益は増加した。 ※令和2年度当年度純利益 (改定前)27,933千円 (改定後)73,454千円 ・改定前の計画値と実績値を比較すると、実績値は計画値よりも上回っていた。実績値を基にR4～R8の推移を更新。
5	2.将来の事業環境 (5)施設の見通し ①水道施設の状況	取水施設	<ul style="list-style-type: none"> ・自己水源(地下水・伏流水)の取水量を更新。 (改定前)2,067m³/日 (改定後)1,930m³/日 ・会津若松地方広域市町村圏整備組合(受水)の取水量を更新 (改定前)5,267m³/日 (改定後)5,237m³/日
		浄水・配水施設	<ul style="list-style-type: none"> ・「浄水場の状況」及び「主な配水池の状況」の経過年数を更新した。 ・本郷浄水場の浄水能力を更新。 (改定前)1,600m³/日 (改定後)1,470m³/日 ・関山浄水場の浄水能力を更新。 (改定前)67m³/日 (改定後)64m³/日
5	2.将来の事業環境 (5)施設の見通し ②管路の状況	管路延長	<ul style="list-style-type: none"> ・管路延長を更新 (改定前)205.45km (改定後)205.53km ・経過年数40年の管路延長を更新 (改定前)0.35km (改定後)2.57km ・経過年数20年の管路延長を更新 (改定前)150.55km (改定後)178.30km ・耐震管の整備割合を更新 (改定前)0.63km (改定後)9.12km ・石綿セメント管の整備割合を更新 (改定前)27.04km (改定後)24.72km
6	4.投資・財政計画(収支計画) (2)投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明 ①収支計画のうち投資についての説明	主要工事	<ul style="list-style-type: none"> ・工事名及び事業期間等を更新した。
6	4.投資・財政計画(収支計画) (2)投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明 ②収支計画のうち財源についての説明	水道料金の改定	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年5月使用分より料金改定を行ったことを追記。 (改定前)年間43,000千円程度の増収 (改定後)年間50,000千円程度の増収 ※累積欠損金は、平成30年度に解消された。
		他会計補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から、職員給与の予算措置人数を2名から4名に増加したことにより、水道事業経営基盤安定のため、資本的収入の一般会計補助金が増加したことを追記。
		企業債	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽管更新事業及びその他建設改良を追記。
		工事負担金	<ul style="list-style-type: none"> (改定前)工事負担金を見込んでいます。 (改定後)工事負担金の収入がありました。
6	4.投資・財政計画(収支計画) (2)投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明 ③収支計画のうち投資以外の経費についての説明	水道ビジョン及びアセットマネジメントの策定	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に水道ビジョン及びアセットマネジメントを策定 (改定前) 水道ビジョン 平成29年度策定予定 アセットマネジメント 平成30年度策定予定 (改定後) 水道ビジョン 平成30年10月策定 アセットマネジメント 平成31年3月策定

頁	見出し	改定事項	改定後
7	4.投資・財政計画(収支計画) (3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要 ①投資について検討状況等	広域化	改定後では、水道事業の基盤強化に向け福島県水道広域化推進プランが策定中であることを追記。
7	4.投資・財政計画(収支計画) (3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要 ②財源について検討状況等	繰入金	改定前では、今後新たな繰入金の予定はないと記載していたが、改定後では、「基準外繰入金」の予定はないと変更。
7	4.投資・財政計画(収支計画) (3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要 ③投資以外の経費についての検討状況等	修繕費	改定後では、策定した水道ビジョン及びアセットマネジメントを基に計画的かつ効率的な施設・設備の修繕等を行っていくことに変更した。
別紙2	経営比較分析表		令和2年度の経営比較分析表へ更新した。
別紙3	投資・財政計画(収支計画)		<p>・H27～R2を実績値へ変更。 ・実績値を基にR4～R8の推移を更新。</p> <p>【投資】 改定前の計画値は、R4以降同額の工事費を計画していたが、改定後では、今後老朽化した施設の更新や災害に強い施設整備の改修等により、投資(工事費)が増加すると計画した。</p> <p>【料金収入】 改定前の計画値と実績値を比較すると、実績値は計画値よりも上回っており、収入が増えている状況であった。しかし、今後人口減少や節水意識の高まりにより料金収入の増加は見込めないため、毎年度1%の減少と計画した。</p> <p>【経費】 改定前の計画値と実績値を比較すると、実績値は計画値よりも低く、費用は抑えられている状況であった。R5以降はR4予算ベースとし、今後も漏水調査を実施するなかで、施設・設備の計画的かつ効率的な修繕による経費削減に努めることで、修繕費は1%の減少と計画した。</p>